

歴史の漬けもの 発信

公約

大阪人のしゃべくりで感動を分かち合う国にします



市民グループ「熟塾」の活動はもう17年になります

肩書や性別に関係なく、ともに大阪の歴史や文化を学ぶ場を作ろうと、会社員や主婦ら20人で始めました。「熟塾」の名は、全国から集まった若者が身分に関係なく蘭学を学んだ江戸時代の「適塾」を指そうとの思いを込めています。

歴史上の人物ゆかりの場所を訪れたり、上方落語や文楽を楽しんだり。聖徳太子の「十七条憲法」制定から1400年目にあたることされる2004年春に

⑤ 歴史文化大臣

原田彰子さん

は、聖徳太子が建てたと言われる四天王寺(大阪市天王寺区)で元管長の話を伺い、庭でお花見をした。

それまでは普通のOLだったんです

適塾は建物の前を通ったことしかなかった。でも熟塾の活動で、大阪には奈良や京都に負けない歴史があり、歴史に根ざした文化もあると知った。他に負けへん、歴史の漬けものみたいな土地です。四天王寺も現在の建物は新しいけれど、夜に境内に立つ「聖徳太子が見たのと同じ星が瞬いているかも」と思ったりします。

第2次世界大戦で多くの歴史的な建物や町並みは焼けてしまった。江戸時代に「道頓堀五座」と呼ばれ、日本のブロードウェイのようだった5劇場も姿を消しました。歌舞伎や世界遺産

産の文楽は関西発祥で今も役者さんが身近にいるのに、劇場が少なく昼間の上演が多いせいとか、敷居が高いように思われる。もったいないことです。

大阪の歴史や文化にもっと親しむようになるためのアイデアは

建物は残っていないけども、大阪人には得意のしゃべくりがあります。「地元の魅力を伝える大会開催!」なんてどうでしょう。適塾で医学を学んだ塾生たちは地元に戻って病の人を助けたそうです。有名人だけが歴史を作ったのではなく、名もなきたくさんの方が時代を支えた。そんな先人の頑張りを、地域に伝える逸話を調べ、「へえ」と感動したことを語り合おうです。お金やモノは分ければ減りますが、感動は人と分かちあえば増える。歴史や文化に触れるこ



はらだ・あきこ 1958年八尾市生まれ。商社勤務のかたわら94年に「熟塾」を旗揚げし代表に。熟塾の活動が評価され、民間団体が選ぶ04年の「なにわ大賞」を受賞した。

■ 入場料に年間いくらかける? (1世帯当たり)

	文化施設	映画・演劇など
全国平均	1850円	6677円
大阪市	1366円	6670円
東京都都区部	2614円	1万4077円
名古屋市	2336円	8015円
横浜市	2331円	8998円

(2010年総務省家計調査)

文化施設にお金使わぬ大阪人 総務省家計調査(2010年)によると、大阪市内の1世帯が1年間に文化施設入場料に使う金額は平均1366円。全国平均を下回り、名古屋や横浜市より千円近く低い。映画・演劇などの入場料支出は全国平均並みだが、東京都都区部の半額以下だ。

一方、府内の国宝・重要文化財は662件(昨年12月1日現在、文化庁まとめ)。奈良(1313件)、滋賀(804件)に次ぐ全国5位と歴史遺産に恵まれている。

とで、今をどう生きるか、将来どうするべきかのヒントがきっと見つかるはず。お上に頼るのではなく、官民共同で自分たちの地域を掘り起こし、語り部となって発信してほしいと願っています。(聞き手・角谷陽子)